

第 2 回 館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和61年6月17日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 神田 守隆
3 番 山中金治郎
5 番 横溝 功
7 番 榎本 春光
9 番 福原 勤
11 番 飯田 義男
13 番 石井 昌治
15 番 渡辺 昭夫
17 番 近藤 好雄
21 番 吉田勇治郎
23 番 伊賀 多朗
25 番 五十嵐 昇
27 番 安西 益男

2 番 田沢 勝信
4 番 小宮 利夫
6 番 生稲 隆
8 番 日下 君敏
10 番 川名 正二
12 番 石井 謀
14 番 伊藤幸太郎
16 番 松下 正己
19 番 黒川 平治
22 番 林 豊
24 番 流山源次郎
26 番 石井 正

1 欠席議員 2名

20 番 石井 武敏

28 番 安澤 徳順

1 出席説明員

市 長 半澤 良一
収 入 役 山田 俊康
総務 部長 飯野 芳郎
経済 部長 安西 良一
教育委員会 会長 高橋 弘之

助 役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生 部長 渡辺 弘
水道 課長 石井 敏夫
教育委員会 教 育 委員 会長 福原 修

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和61年6月17日午前10時開議

日程第1 議案第34号 館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

日程第2 議案第35号 昭和61年度館山市一般会計補正予算(第

- 1号)の専決処分の承認について
- 日程第3 { 議案第36号 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第37号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第38号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第39号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第40号 館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第41号 館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第42号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第43号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 日程第4 { 議案第44号 昭和61年度館山市一般会計補正予算(第2号)
- 議案第45号 昭和61年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
- 議案第46号 昭和61年度館山市老人保健特別会計補正予算(第1号)
- 日程第5 請願第2号 公費負担医療の改善・充実に係る請願書
- 日程第6 請願第3号 昭和61年産生産者米価・米穀政策実現に係る請願書

開 議 午前10時04分

○議長(流山源次郎君) 本日の出席議員数25名、これより第2回市

議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第1、議案第34号館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

質疑応答

○議長（流山源次郎君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。

○1番（神田守隆君） 市税条例の一部改正の専決処分でありますけれども、この内容から見ますと、たばこ消費税の引き上げの問題であります。国庫補助負担率の引き下げに伴う地方財源対策としてたばこ消費税の引き上げが行われている、こういうことではあります。従来国のいわゆる補助金カットのつけ回しをいわば地方税の引き上げで穴埋めをする、こういったような性格を持っているのではないかということで大変重大な問題ではないか、こういうふうに思うわけです。

これまでも地方6団体等、国、地方を通じての行政改革という中で、地方への負担の単なるつけ回しについては認められないんだという、こういうことを強く主張してきたわけではあります。こうした形で地方税の増税でいわば補助金カットの穴埋めをするというのは、やはり原則的に大変おかしいことであるし、こうしたやり方というのを今度のこうした地方税の引き上げは容認することにならないかと思うんですが、この辺についてはどういうふうになっておるのか、お聞かせを願いたいと思うんですが……。

○総務部長（飯野芳郎君） 今回のたばこ消費税の値上げの件ですけれども、国庫補助負担率の削減に伴いまして地方で相当の財政的な負担をこうむるわけですが、それについて国の方ではそれなりの対応をいたしまして、今年度つくっております地方財政計画によりますと、地方に負担を削減しても収支均衡がとれるような対策を講じているわけですが、今回のたばこ消費税の値上げに伴いまして増収額が2400億円

確保されるわけですからけれども、この内訳といたしまして国で1200億円、地方で1200億円のそれぞれの増収があるわけですからけれども、国の取り分であります1200億円につきましては地方交付税の措置という形で各県並びに市町村に配分されるようになっておりますので、負担の削減に伴います地方の負担については国で財政的な措置をするというふうに手当てされているわけです。

◎1番（神田守隆君） 質問の意味が必ずしもいっていないということ、市長さんにお聞かせいただきたいと思います。

この問題は、国全体の問題として、こういう地方に補助金カットということで地方の財源を削っておいて、それに対する国の手当てがこれまでこういうやり方で地方税をふやすという形でその財源手当てをするというふうなあり方はやはり原則的に問題があるのではないかと、こういうふうに思うんですが、こういう点で今後さらに国の——これは1年限りの時限立法ということで、補助金カットについては2年、3年ということで続くわけですし、こうしたやり方が今後も続いていくというのは大変ゆゆしき問題ではないか。さらに、今後心配するのはこういう手法が拡大されていきやしないか、こういう点で大変不安を感じるわけで、そういう点から地方6団体等は、また全国市長会等、こうした問題についてやはりどういうふうな見解なり対応を考えておられるのか。その辺についての政策的な考え方をお聞かせいただきたいと思います。

◎市長（半澤良一君） 全国市長会では特に御指摘のような懸念は持っていないように理解しております。補助金カットによる地方の収入削減に対する穴埋めとしての措置でございますので、それはそれなりに評価しているように理解しております。

◎議長（流山源次郎君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長(流山源次郎君) これより討論を行います。討論ありませんか。

◎1番(神田守隆君) 今の御答弁の中で、全国市長会等については懸念を持っていないということでもありますけれども、しかし、私は十分この問題は重大な問題として考えなきゃならぬというふうに思います。

というのは、結局国庫負担金カット、こうしたことが地方に押し付けられている、その財源対策として地方税の増税によって穴埋めをするというような手法が認められるということは、今後さらにこうした手法が拡大されていくというようなことになると大変重大な問題に発展する、そういう点で原則的にこういうようなあり方というのはやはり認めてはならない、国庫補助金カットの国の施策、そうしたものが住民の増税で賄われるということはやはり絶対に認められないということで、今回のこの地方税の改正については反対いたします。

◎議長(流山源次郎君) 他に討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長(流山源次郎君) これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を承認することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

◎議長(流山源次郎君) 日程第2、議案第35号昭和61年度館山市一般会計補正予算(第1号)の専決処分の承認についてを議題といたし

ます。

これより質疑を行います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論を行います。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

◎議長（流山源次郎君） 日程第3、議案第36号乃至議案第43号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（流山源次郎君） これより質疑を行います。

通告はありませんでした。御質疑ありませんか。

◎3番（山中金治郎君） 議案第37号の館山市の職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてで1点御質問いたします。

地方公務員法によりますと、通貨で支払うというのが原則のようでご

ございますが、今度の改正の条項で18条「給与は、職員の申出により、口座振替の方法により支払うことができる」、これが入るようなんですけれども、これは職員の方から口座振替にしてくれということでこの条項をつくるわけですか。私は、やはり現金の方がいいじゃないかと思ったんですが、手数料がかかるということでこういうことになるわけですか。

○総務部長（飯野芳郎君） 今回の改正につきましては、事務の簡素化を図るという観点から、今まで現金で袋詰めをしてきたわけですがけれども、事務の合理化を図るという観点で職員の申し出によりまして口座振替の方法を適用していきたいというふうに考えております。

○議長（流山源次郎君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） ただいま議題となっております議案第36号乃至議案第43号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第4、議案第44号乃至議案第46号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（流山源次郎君） これより質疑を行います。

通告はありませんでした。御質疑ありませんか。

○8番（日下君敏君） 議案の44号の一般会計補正予算についてお聞きいたしたいんですけれども、きのうもこの問題、粗大ごみの地方交付税についてお聞きしたんですが、それによりますと総務部長違法性がないんだということなんですけれども、概略のきのうの答弁によりますと、「普通地方交付税に関する省令に基づいて正規の手続きを経たから違法性がない」ということですが、省令に基づいて正規の手続きをとっていただければこういう結果が起きないと思うわけです。

ですから、その辺をもう一度お聞かせ願いたいというのは、やはり 59 年度の交付税についてはすでに決算を済ませて議会の認定を得ておりますので、その辺もからめてもう少し詳しく御説明願いたいと思います。

やはり、もう 1 点、答弁の中で、終わったものは、例えば総務部長によれば「税金でも過誤の還付金というものがあり、それは当該年度に決算したものを過誤ということで還付するという形があるから違法性がない」ということを御答弁なさっておりますが、私は、税の還付というのは国なり地方公共団体なりそういった公的機関と我々私人との関係を指すんであって、今回の場合は執行機関である行政当局と議会との関係でございますので、必ずしも私は税の問題で過誤の還付金があるから適法であるということにはならないと思っておるんですが、その 2 点についてお聞かせください。

◎総務部長（飯野芳郎君） 各年度の決算につきましては、翌年度の 5 月 31 日の出納閉鎖をもって実施しているわけですが、これについては議会の認定をそれぞれいただいているわけですが、決算後すなわち出納閉鎖後、翌年度の 6 月 1 日以降に生じます支払い、具体的にはきのうも申し上げましたとおり市でいえば税収入、還付金というような例もあるわけです。今回一括算入につきましては普通交付税に関する省令に基づきまして正規の事務手続きを得て本市に交付税措置がされたものでありまして、61 年度におきまして当該省令の変更に伴い構成市町村と協議の上、御了解の上配分しようとするものでありまして、決算上、地方自治法上も問題はないというふうに考えております。

還付金が私人であろうと地方自治体であろうと、市の財政を経由して還付するなり、返還するということは同じことでありますので、私人であれ、地方公共団体であれ同様な取り扱いになると思います。

◎8 番（日下君敏君） どうももうひとつしっくりしないんですが、法律上は、地方自治法によれば、各会計年度における歳出はその年度の歳入をもって充てる。こういうわけですね。ですから、61 年度の補正予算の歳入財源は、61 年度の歳入をもって充てなければならない、こう思うんです。たとえば、61 年度予算でいえば 1 億 500 万の剰余金は 60 年度会計の剰余金でありましてまだ認定を得ていないんだ、いや、

これは決算認定を得なくても使えるんだ、こういう御議論でございますが、その辺がもうひとつはっきりしない。

それと、やはり議会で決算を認定して終えてしまったものを、61年度で改めて普通予算に持つてくるということはどうしても納得しないんですが、その辺はやはり今のような御回答でございますか。

◎総務部長（飯野芳郎君） 第1点目の繰越金の利用についてでございますけれども、決算の認定をいただかないと繰越金を利用できないというふうには考えておりません。繰越金がおおよそ出納閉鎖を終わりました幾らぐらいになるということを目途を立てまして、今回の返還金に充当しようというふうに考えておりまして、これは何ら問題がないというふうに考えております。

それから、会計年度のことですけれども、官庁会計はそれぞれ単年度で決算しておるわけですから、実質収支については翌年度以降も継続的に利用できるわけですので、繰越金についても翌年度以降財源として充てていっても何ら問題がないというふうに考えられます。

◎8番（日下君敏君） 見解の違いがありますものですから、そのまま平行線なわけですが……。

市長さん、決算書を執行機関の方で出して議会の方で一応それを認定した、多分満場一致ではなかったかと思うんですが、それをさらにそこに過誤があったのか、あるいは適正な手続きに基づいたかは別にしまして再びその当該の問題について議会でそれをもう一度採決いたすということについて、ただいまの御意見で法的な違法性はないということですが、執行機関と議決機関との関係から見て、私はどうももうひとつしっくりしないんですが、どのようにお考えなのか御答弁をいただきたいと思います。

◎市長（半澤良一君） ただいま総務部長御答弁申し上げましたように何ら違法はないと考えております。

◎議長（流山源次郎君） 他に御質疑ありませんか。

◎2番（田沢勝信君） ただいまの議案44号についてなんですが、日下さんの質問に対して総務部長から答弁があったんですが、私もこの件につきまして自治省の見解を聞いておるんですが、随分見解が違

うと思うんです。

本来であれば、この普通交付税については単年度で関係する市町村に対して分配しなければいけない、そういう省令になっていると思うんです。それを執行部の皆さんが解釈の違いをして分配をしないで、しかも予算書を見ますとその交付税を館山市が収入として入れたわけですから、しかもそれを使用したわけです。それについて自治省から省令の解釈の違いがある、解釈のミスをして館山市は使用してしまった、それを今回地方自治体に対して、関係市町村に対して分配しなさい、そういう指導を受けたと思うんです。その点についてはいかがですか。

◎総務部長（飯野芳郎君）　きのうも市長が本会議で御答弁申し上げましたように地方課の指導を受けまして、たまたま私も申し上げましたけれども、本市としては初めての交付税の広域的な措置でありましたので、事務的な配慮が足りないために今回のようになったわけであります。

これについては構成市町村の財政担当課長を通じまして、各市町村長さんにも御了解の上、今回のような措置をとらしていただきたいというふうに考えております。

◎2番（田沢勝信君）　配慮が足りなかったということなのですが、私も先ほど申しましたように省令の解釈が間違っていたということですね。

◎総務部長（飯野芳郎君）　省令には「施設の所在市町村に係る施設とみなす」ということでうたわれておりましたので、そのとおり本市に一括算入をさしていただいたわけですが、この配分については各広域市町村圏の構成団体の協議に基づいて行われておりますので、館山市のほか構成市町村団体からの意向がその当時なされなかった、たまたまみなしという規定のもとに館山市で一括算入さしていただいたわけですが、今回、61年度の省令の改正に基づきまして今回のような措置をとろうというふうに考えております。

◎市長（半澤良一君）　田沢議員のおっしゃるとおり、何か自治省では館山市が条文の解釈を誤ったというふうにいる、というふうにわきから聞いておりますけれども、私はあの条文を全部読みましたけれども、館山市の解釈間違っていないというふうに考えているわけでございます。

所在市町村の施設とみなして交付税を交付するということでございますから……。どうも、あの条文読んでみても、各構成団体に配分しろという規定はどこにもないわけでございますので、私は館山市の解釈間違っていないというふうに考えております。

ただ、現実には即して考えてみますと、やはり各市町村がそれぞれ負担をして建設をしたわけでございますから、何らかの基準で配分する方が妥当ではあると思いますけれども、法律的には私ども市の行為は間違っていなかった。そういう意味で県は従来も配分するように行政指導してきたはずだといっているんでございますけれども、私どもそういう指導を受けていないんで配分をいたさなかった、そういうことでございます。あの条文どこを見ましても配分しろということはどこにも書いてございません。

◎ 2 番（田沢勝信君） 市長さんの解釈は非常に主観的ではないかというふうに私は思うんです。予算は単年度ごとの予算、決算になりますから、当然交付税が4年間も分配されないということはあってはならないと思うんです。しかも、私ども議会としては単年度ごとで全部使用してきた、そういう決算をしてきたはずなんですね。したがって、市長さんが省令の解釈上分配を単年度ごとにしなくてもいいんだ、非常に私は主観的な考え方だと思うんです。よしんば、市町村に分配しなくてもいいんだ、単年度ごと、そういうことであれば予算編成の仕方が変わると思うんです。将来これは分配をしなければいけない、そういうことが想定されるんだということであれば、館山市単独で財源として予算に入れて、しかも全額を使用する、そういうことはあり得ないと思うんです。

私は、執行部の皆さんが省令の解釈を誤解して使ったというふうに言わざるを得ないんです。そうでなければあの予算書はできるはずがないんですよ。国から交付税として交付された、単年度ごとに全額使ってしまう、今市長さんがいわれたように省令の解釈に館山市は間違いがない、そういうふうに思っている、当然あの省令からいけば分配を将来的にはせざるを得ない、そういう省令になっているわけです。自治省もそういうふうにいってるんです。県の地方課もそういう見解なんですよ。ところが、館山市の解釈だけが違うんです。

初めての経験だというふうにいわれるわけですがけれども、今後三芳水道、あるいは給食関係、広域でやっています。ある意味では安房郡の町村の理解の中でやってるわけです。私は聞いています。他の関係町村から館山市に対して交付してもらいたい、そういう要望をしたら、あれは迷惑料だ、館山市が使っているんだ、そういうこともいわれた、そういう理事者もいるんです、実際は。

ですから、この際館山市は省令の解釈にミスがあったということで議会に諮っていただかないと、この一般会計の補正予算がどういう性格で議会に提案されているのか、過去において決算しておりますけれども、過誤があった、そのための措置として一般会計を組んでおるのか、全くミスはなかったんだ、そういうふうにして居直って一般会計補正予算を組むんだ、全然違うと思うんです。その辺の御見解を市長さんにぜひもう一度お願いしたいと思うんです。

◎市長（半澤良一君） 私は、ただいま申し上げましたように条文の解釈を間違っていないというふうに今でも理解しております。もし、そう解釈するんだとするならば、条文のどこにそういうことが書いてあるか教えをしていただきたいと思いますと思うわけでございます。

私どもとしては間違いなく条文どおりに解釈をしていた、ただ行政指導を受けたので——御案内のように今回61年度から省令が変わりまして、各構成団体に交付税措置をするようになったわけでございますが、私は、そうなったということは、今までの条文が不備であった、条文上私どもが解釈するような解釈が十分できる余地があった、だからそれをはっきりさせるために今回条文を改めたんだというふうに私は理解をしておるわけです。

そういう意味で、私どもの措置は間違っただけではなかった、ただ現実的に考えれば、先ほど申し上げましたように各構成団体に配分する方が妥当であろう、そういう意味で県の地方課の指導に従った、そういうことでございます。

◎議長（流山源次郎君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（流山源次郎君）　ただいま議題となっております議案第44号乃至議案第46号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託をいたします。

請願書の上程

◎議長（流山源次郎君）　日程第5、請願第2号公費負担医療の改善・充実に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（流山源次郎君）　朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

◎議長（流山源次郎君）　次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（27番議員安西益男君登壇）

◎27番（安西益男君）　請願第2号公費負担医療の改善・充実に関する請願書の趣旨の説明をさせていただきます。

この請願は、千葉県退職婦人教職員の会代表青木光江ほか349名の署名によるものでありまして、昨年3月にも同様の請願が提出されております。

今回は要望事項も限定されており、その要望の内容は次のとおりでございます。1、医療無料年齢を国並み七十歳より引き下げてください、1、高額医療費の委任払い制度を創設してください、1、はり、きゅう、マッサージの医療費の一部補助金を自治体で支出してください、1、付添看護料を補助してください、1、差額ベット料の差額を補助していただきたい、という5項目であります。

他市等におきましては、このうち何点かについてを取り上げ、実施している自治体もあります。当市におきましても再三の請願でもあります。それだけに切実なる訴えと思われますので、どうか市当局におかれましても十分御検討いただけますよう、満場の御賛同賜りますよう御紹介申

し上げる次第でございます。

○議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） 本請願書につきましては、文教民生委員会に付託いたします。

請願書の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第6、請願第3号昭和61年産生産者米価・米穀政策実現に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（流山源次郎君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（流山源次郎君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（17番議員近藤好雄君登壇）

○17番（近藤好雄君） ただいま朗読のございました請願第3号につきまして御説明申し上げます。

昭和61年産生産者米価・米穀政策実現に関する請願書の紹介をさせていただきます。

豊作であった昭和59年でも現行米価水準では1.5%未満の稲作経営は二次生産費を補えず、1.0%未満経営は直接費用の一次生産費をカバーできず、こうした中で臨調審は米価の抑制、食糧制度の見直し奨励、補助金の削減等農業政策の転換、農業の合理化を求めている。

61年産米価について財界、マスコミだけでなく、政府の中にも収量の増加、労働時間の減少、労賃、物財費の安定を理由に米価引き下げ論議がある。

稲作農家の生産向上の努力にもかかわらず、生産調整と米価抑制により収益性が悪化している中で、米価が据え置きまたは引き下げられるな

ら稲作農家に与える経済的、心理的影響は大きく、稲作農家の将来にとっても地域経済にとっても大きな打撃です。

よって、このような事情を御理解いただき、満場の御賛同を賜りたくお願い申し上げます。

◎議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

委員会付託

◎議長（流山源次郎君） 本請願書につきましては、建設経済委員会に付託いたします。

延 会 午前 10 時 46 分

◎議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明 18 日及び 19 日は委員会での議案審査のため休会、次会は 6 月 20 日午前 10 時開会といたします。

その議事は、議案第 36 号乃至議案第 46 号等に係る委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案に対する討論通告の締切は 6 月 20 日午前 9 時でありますので申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第 34 号乃至議案第 46 号
- 1 請願第 2 号、請願第 3 号

